

平成28年度事業報告

平成27年11月1日～平成28年10月31日

一般財団法人 CHANGアジアの子供財団

事業報告書

1. 概況

昨年に引き続き東南アジア、多くの孤児院に加え、スラムにも訪問するようになりました。その中で、本当に困っている場所と、それほどでもない場所の区別もつくようになりました。例えば、教室ほどの部屋にはお米が1年以上も山積みされている場所も多々あり、世界中から観光客が訪れるような地域では、その中には観光のついでに孤児院に寄っていく方も多く、中には毎日何十人以上もの方々から寄付を頂いている場所もあります。施設の構造や備品も日本と変わらないか、それ以上に立派な施設もたくさんありました。

私たちは予算をより効果的に活用したい思いがあることから、今までに訪問した場所の中でより困っている場所、より支援が求められている場所を選別しました。そしてその中で、カンボジア国アンドンバイ村スラムと、このスラムにあるバサック孤児院から私たちの活動が求められるようになりました。このスラムには 1,000 世帯、子供だけでも 2,000 人以上が暮らす大きなスラムです。そしてこの孤児院には 35 人の子ども達が保護されています。ここには定期的な寄付や物資の提供と同時に、職業訓練施設と教室兼寝室を建設、またトイレとシャワーの設置もしてきた慣れ親しんだ場所でもあります。

そして私たちが物資の提供が中心だったことに対して、全面的な金銭的サポートをしていたのがアメリカの NGO でした。ところが今年6月にこの NGO からの支援が突然止まるという緊急事態がありました。収入のほぼ全てが絶たれた孤児院の代表から私たちに緊急要請があり、私たちはそれを承諾しました。この経緯により今後はこの孤児院のほぼ全ての運営費を当財団で賄うこととなり、更にこの孤児院の敷地に直営の CHANG スクールを設立、スクールの目的は「アンドンバイ村スラム全体の生活と自立までをサポートすること」を掲げました。

このように今年度は多くの子ども達の生活と自立に寄与できたと同時に、今後活動の対象と方向性が明確になった一年でした。

2. 活動の成果

- ・タイ国にある協力団体、タイの子供財団と協働で研究、実施しているセンサーリーインテグレーション教育の大きな成果がありました。この教育は発達障害児の成長を促進する教育なのですが、多くの子供が集中力が増し、よく話をするようになり、また情緒の安定など、目に見えた効果がありました。そしてこの教育方法と結果を、東南アジアの教育者や日本の大学教授へも普及することができました。
- ・日本から集めた衣類1万着を配布。タイ、ベトナム、ラオス、カンボジアの施設とスラムに届けました。またこの輸送費はクラウドファンディングで集めたことから、多くの日本の皆様にも私たちの活動を知って頂いたかと考えております。裸で生活しているからこそその病気や怪我も後を絶たない中、多くの子供を衣類で守ることができたことでしょう。
- ・そしてその衣類の一部を使って、カンボジアのバサック孤児院の子ども達と、バザーを開催しました。2千人が集まったお祭りに出店。子ども達は衣類を運んで、陳列、値段の設定をして、笑顔で販売して笑顔でお礼を言うなど。自分でお金を稼ぐという楽しさや難しさを学ぶことができ、これは職業訓練として将来の自立にも繋がることでしょう。
- ・タイ国タマサート大学の日本人留学生達と一緒に、カンボジアで栄養指導と歯みがき指導をしました。多くの子が偏食が多く、歯を磨く習慣がない中、マンガを交えての授業に子ども達だけでなく先生達もとても興味深く話を聞いてくれました。今後も健康と衛生の改善活動として継続して行っていきます。
- ・CHANG スクールを設立。アンドンバイ村スラム全体の生活と自立までをサポートため、まずはバサック孤児院と共にスラムにある幼稚園の支援も開始。そしてスラムにあるチルドレンブリッジ学校とも提携することができました。この学校は英語、日本語の教育に加えて、進学や就職の指導までを行い、更にミシンなどの職業訓練も行ってます。こことも連携することで、生活、教育、進学、就職の一貫サポートができる体制を取ることができたのは、今後の生活支援と自立サポートに繋げる大きな成果であると捉えています。

3. 海外での公益活動実施状況

どの施設にも基本的な活動として、寄付金、食材、生活用品、勉強用具、運動用具を提供して
ます。そこで子ども達へ勉強や運動、衛生の指導をしながらの交流を行ってます。以下の「活
動内容」は以上の活動に加えて行った内容を記載します。

日程	訪問国	訪問・スラム名	活動内容	子供の数	参加人数
11月28日～	カンボジア	クパールコック小学校	衣類の提供 伝統シルク製造の視察	50	3
11月29日～	カンボジア	バサック孤児院	衣類の提供	35	3
11月30日～	カンボジア	SCADP 孤児院	衣類の提供	33	3
12月2日～	カンボジア	スタンミエンチャイ小 学校	基本提供内容	220	3
12月8日～	タイ	子供の村学園	知育教材の提供 センソリーインテグレーシ ョン教育の実施と研究 タイ国タマサート大学生と 子ども達との交流研修	123	3
12月10日～	タイ	ローレンゾウホーム	タイ国タマサート大学生と 子ども達との交流研修	30	7
2月8日～	ラオス	ワットシーアンボン小 学校	衣類の提供	57	3
3月8日～	ベトナム	マイアムデッツェン孤 児院	衣類の提供	125	4
3月8日～	ベトナム	フォブォ孤児院	衣類の提供	80	5
3月8日～	ベトナム	テレサファッシュ孤児院 孤児院	衣類の提供	58	4
3月8日～	ベトナム	ロンホアン孤児院	衣類の提供	90	4
3月11日～	カンボジア	バサック孤児院	衣類の提供	35	4
3月12日～	カンボジア	スタンミエンチャイス ラム	衣類の提供	200	4
3月12日～	カンボジア	パークンスラム	衣類の提供	30	4
3月13日～	カンボジア	プノンペン市内お祭り	バサック孤児院の子ども達	35	4

			と衣類バザーの開催		
3月14日～	カンボジア	SCADP 孤児院	衣類の提供	33	4
3月14日～	カンボジア	バンコッスラム	衣類の提供 村長とミーティング	200	4
3月14日～	カンボジア	ロルウスラム	衣類の提供	100	4
3月16日～	タイ	子供の村学園	知育教材の提供 センソリーインテグレーション教育の実施と研究	123	3
4月16日～	カンボジア	スタンミエンチャイスラム	タイ国タマサート大学生と子ども達との交流研修	250	7
4月16日～	カンボジア	パークンスラム	タイ国タマサート大学生と子ども達との交流研修	30	7
4月17日～	カンボジア	バサック孤児院	タイ国タマサート大学生とカレー作り、栄養指導、歯みがき指導	35	7
4月18日～	カンボジア	SCADP 孤児院	タイ国タマサート大学生と子ども達との交流研修	33	7
4月18日～	カンボジア	クパールコッ小学校	タイ国タマサート大学生と子ども達との交流研修	50	6
6月7日～	カンボジア	プノンペン市内飲食店	ヌンパン調理の研修		3
6月7日～	カンボジア	バサック孤児院	伝統舞踊やダンス指導のため、ムービーシアターセットの提供	33	3
6月7日～	カンボジア	チルドレンブリッジ学校	校長と今後の連携をミーティング		3
6月8日～	カンボジア	SCADP 孤児院	通常交流	33	3
6月8日～	カンボジア	バンコッスラム	通常交流	30	3
6月9日～	カンボジア	バサック孤児院	ヌンパン調理研修（調理師と子ども達と）	33	3
9月19日～	カンボジア	バサック孤児院と遠足	ケプビーチへ	35	4
9月20日～	カンボジア	SCADP 孤児院	通常交流	33	4
9月20日～	カンボジア	パークンスラム	通常交流	30	4
9月21日～	カンボジア	バサック孤児院	CHANG スクールオープン	35	4
9月21日～	カンボジア	チルドレンブリッジ学校	CHANG スクールとの連携確認		4

9月23日～	タイ	子供の村学園	知育教材の提供 センソリーインテグレーション教育の実施と研究	123	2
9月23日～	タイ	ローレンゾウホーム	通常交流	30	2

・公益活動以外の事業は一切行ってません。

4. 出版・広報

送付日	名称	主な内容
12月25日～	CHANG冬号（季刊誌）	衣類1万着の提供報告
8月20日～	CHANG夏号（季刊誌）	CHANG スクールを開校

・その他、ホームページやFacebookにて随時情報提供

5. 協力団体等

団体名	協力内容
タイ国 子供財団 (Foundation for Children)	知育教育の研究と推進
公益財団法人 日本バレーボール協会	バレーボールの寄付
NPO 法人 日本救援衣料センター	衣類の寄付
(株)日本エコプランニングサービス	スタディツアー企画
国際学院高等学校 バレーボール部・サッカー部	ボールの寄付
双実ロジスティクス(株)	海外輸送支援
タイ国 タマサート大学 日本人留学生（有志）	街頭募金・海外活動への参加
国際社会推進会ワールドギフト	生活用品、教材など物資の提供
NPO 法人もったいないジャパン	生活用品、教材など物資の提供

・その他、マンスリー会員企業

6. 評議員・役員に関する事項

役職名	氏名	就任年月日
評議員	柊澤 玄樹	平成 26 年 11 月 4 日
評議員	木村 孝禅	平成 26 年 11 月 4 日
評議員	佐久間 茂	平成 26 年 11 月 4 日
代表理事	齋藤 浩司	平成 26 年 11 月 4 日
理事	山崎 雅史	平成 26 年 11 月 4 日
理事	塚田 昭平	平成 26 年 11 月 4 日
理事	後藤 範泰	平成 26 年 11 月 4 日
監事	齋藤 尚久	平成 26 年 11 月 4 日

7. 各種会議の開催

会議名	開催回数等	実施日	備考
評議員会	第 3 回 評議員会	11 月 4 日	
理事会	第 3 回 理事会	11 月 16 日	
理事会	第 4 回 理事会	12 月 18 日	評議員同席
理事会	第 5 回 理事会	3 月 18 日	
理事会	第 6 回 理事会	6 月 23 日	

8. 総括

まずは活動する対象を選定したことで、今後の活動をより効果的にする体制が整ったことになりました。タイと協働で活動しているセンサーイノベーション教育の効果も実感でき、この実績と方法を、東南アジアだけでなく日本の教育機関にも普及できましたが、この活動はますます活性化する大きな意義があると感じました。更にカンボジアのアンドンバイ村スラムに、直営の CHANG スクールを開校でき、これは今後の活動の重要な拠点となります。同時にスラムの孤児院、幼稚園、学校、職業訓練施設と連携関係を結べたことで、生活、教育、進学、就職という当財団が設立から掲げている目的に進むための体制が整った、飛躍的な一年だったと捉えています。次年度もタイの子供財団、カンボジアのアンドンバイ村スラムを中心に、本当に困っている東南アジアの子ども達のサポートに邁進する所存です。